

令和4年度
接続期カリキュラム推進地区
活動報告 成果と課題

【テーマ】

「いきいき」「わくわく」「やってみたい」を引き出す
主体的な遊びと学び
～子どもの姿を通して架け橋期のカリキュラムを考える～

本郷台地区（本郷台小学校・新大船幼稚園）

《 架け橋期のカリキュラムを共通にとらえる視点 》

「わくわく」
はどこから
生まれてくる
かを考えて
みました

一人ひとりの “ やりたい ” がかなえられる保育と授業づくり

実践を通して（考察より）

子どもの「やりたい！」がかなえられる幼稚園での遊びと小学校での学習。それがつながることによって、学び手である子どもが、安心して自己発揮し、主体的に、探究的に、協同的に、学びを広げたり深めたりしながら、学びを面白がる＝自ら学びに向かう態度を形成していくと考えます。そのためには、保育者や教師が、子どもの声を聞くこと、その声を受け止め、保育や授業に生かしていくことが大切であると考えます。

また、幼児期に安心して様々な人・モノと対話ができる環境を保障し、存分に探求できることは、小学校以降の学習の中でも自分なりに疑問や問題提起ができ、「考える力の根っこ」になると考えます。

園での遊びと小学校での学習が、どちらも自分たちの思いを実現できる場であること、実現するために自ら考え、関わり、手ごたえを感じながら取り組んでいけること、そうした学び方が幼児教育と小学校教育でつながっていく環境をつくるのが、将来にわたって生きる力を育む大切な営みになっていくと考えます。

実践事例

新大船幼稚園

やまももたくさんみつけたよ！



園庭にあるヤマモモの実を使って…！

ヤマモモの
実を見つけ
た子ども達



(砂場で)
ケーキの飾り付けに使おう！

カブトムシはヤマモモ
食べるのかな？？



遊びの中でヤマモモに親しむ子どもたち！
身近な自然とかかわる時間も大事にしています！

台風の次の日に…

「ヤマモモでジャムを作ることができるよ！」
と声をかけてみると…

こんなにたくさん
落ちてたよ！

これで何か作ってみたい…！



“本物のジャムを
つくってみたい！”



「本当のジャムが作れるの？」と興味が広がり、“やってみたい！という気持ち”、“どうなるのかな？という期待感”が膨らんでいきました！

どうやってジャムを作るのかな？

作り方を調べてみよう！



火とお砂糖が必要だって！
園長先生にあるか聞いてみよう！



みんなに
作り方を共有

まずはどうやって作るのかを検索！ 調べたレシピをみんなで共有し準備を進めていきます！

ヤマモモを“茹でる”

さあ準備完了！
いよいよジャム作りスタート！



こんなに
赤くなるんだね！！



みんなで
風を止めよう！

どうやって??

肩を組んだら
いいかも！！

風を止めるために肩を組むなど子どもたちの工夫が光ります！

つぶしてみると…新たな発見！

柔らかく
なってる！



実際にやってみたことで「ヤマモモってもっと堅かったよね…！？」とこれまで触れてきたヤマモモとの感触の違いや変化に気付き、新たな発見や驚きがありました♪

仕上げに…☆



「グツグツなってきた！」
「これでジャムになるんだね！」



本当にジャムになった！

ばら組特製ジャムの完成！



本物のジャムを作るために、みんなで試行錯誤し作り上げていきました。
「本当にできた！」と驚きと嬉しさがいっぱいの子どもたちでした！

特製ヤマモモジャムの使い道は…??

冷蔵庫に入れたジャムどうなったかな？
と楽しみに登園☆



このジャム
何に使う…？



プリ子を
捕まえよう！！



園庭の花壇に時々現れるカナヘビ（通称：プリ子）
を捕まえてみたい！と言い、虫トラップとして
特製ジャムを活用することに！
結果は…！？ アリだけがたくさんきました！笑
これもまた新たな発見ですね♪

広がる遊びと興味



茹で汁を使って
布染めに挑戦！



色水で紙染めをした経験から「ヤマモモの汁でも染めてみたい！」と、これまでの経験からまた遊びが広がっていきました！



違う色もできるのかな？と新たな疑問が生まれ、今度は草や花を使った染め物へと広がっていきました！

考察（幼稚園）

- ◆一人の声から始まったヤマモモのジャム作りをきっかけに、虫トラップや染め遊びなどに広がっていきました。友だちの発信を面白がりながら一人ひとりが主体的に参加したり、互いの思いや考えを分かち合い共感する姿も見られました。楽しい・面白いポイントもひとそれぞれ！一人ひとりの「子どもの声」を聴き、受け止めていくことで「やってみたい！」とわくわくしながら取り組む遊びを生んでいくと感じます。
- ◆初めは「やってみたい！」よりも「やっていいの？」ということも多かった子どもたち。このヤマモモの遊びをきっかけに、やりたいことに向けて友だちと一緒に試行錯誤や探求していく面白さに出会いました。そうした経験から「次はこれをやってみたい！」「もっとやってみたい！」という考えに変化していったように感じます。やっていいの？」は、大人の判断を待つ言葉かもしれません。それを「やってみたい！」と自分発信の言葉に変えていく。「やってみたい」という言葉を受け止めていく大人の心もち、そしてそれがかなえられるような保育が子どもの主体的な姿を引き出していくと感じます。
- ◆子どもたちのつぶやきに耳を傾け、「やってみたい！」を実現していく中で、「もっとやってみたい！」という探究心と主体性を遊びの中で育んでいきたいと実践を通した子どもの姿から感じます。幼児期に安心して様々な人・モノと対話ができる環境を保障し、存分に探求できることは、小学校以降の学習の中でも自分なりに疑問や問題提起ができ、「考える力の根っこ」になると考えます。

わくわく感を学びに！

4月

子どもにとってわくわくする入学式に

タッチー便です！
タッチーくんから、1年生
のみんなにお届けものです。

1. ウーパールーパー
2. 台小農園看板
3. 楽器（びんざさら）

学校のどこにあるか探して
ごらんって手紙に書いて
あるよ。



どこにあるんだろう。
早く探しに行きたいな！

入学式翌日から
学校たんけんが
始まります！

4月

わくわくタイム 学校たんけん

ウーパールーパーを
見つけたよ！



楽器があったよ！
この楽器は、なんてい
う名前なんだっけ…？



自分の興味・関心に
そって、学校の中を自
由にたんけんします。



4月

わくわくタイム 学校たんけん

校長先生、音楽室の前に置いてある楽器の名前を教えてください。



あの楽器はびんざさらというんだよ。

校長先生から教えてもらったことを書いておこう。みんなに伝えたいな。



分からないことを聞く、調べることが学びます。もっと知りたいという気持ちが主体性につながります。

4月

わくわくタイム 学校たんけん

お兄さんやお姉さんが歌を歌っているよ。



いろいろな楽器があって楽しいな。
みんなに伝えよう！

どんな楽器があったの？さわってみ
たい！



児童のつぶやきや発見を見逃さず、
次の学校たんけんへとつなげます。

5月

わくわくタイム 学校たんけん

音楽専科との出会い



学校たんけんでは音楽室を見つけました。入ってもいいですか。

1年1組のみんな、特別に入っているよ。いつもは3年生～6年生の音楽で使う教室だよ。

音楽専科による特別授業が行われました。



みんなで音を出すとおもしろいよ。



これも楽器なんてびっくり!



一人の興味が、みんなの学びにつながりました。

6~7月

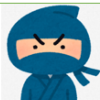
ぐんぐんタイム 体育 (マットを使った運動遊び)

ミッション③

とび・のぼりのじゅっ

- ・かべのぼりさかだち
- ・かわとび

まっとうらんどにわなをしかけたぞ。きょうのまっとうらんどはじゅんぴがたいへんだ。ちからをあわせてじゅんぴしたまえ。

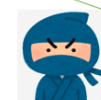


ミッション④

ぶんしんのじゅっ

- ・ふたりでブリッジ
- ・ふたりでまるたころがり
- ・ふたりでまえころがり
- ・ゆりかごじゃんけん

ここをひとつにすれば、ぶんしんのじゅっがますたあできるぞ。きみたちのちからで、ぶれぜんどをとりもどせるかな。



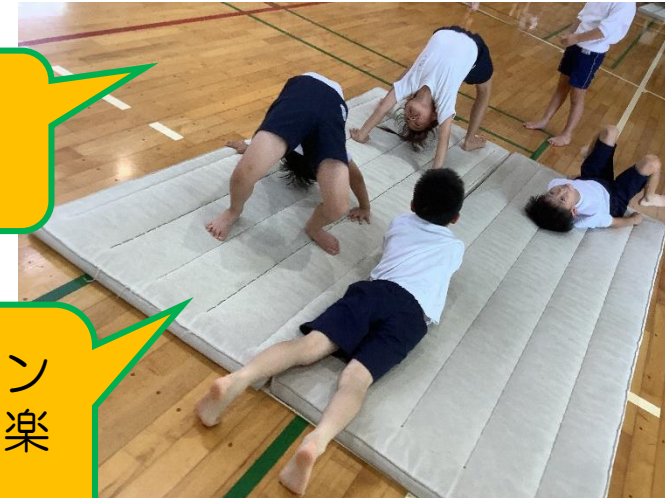
複数の場を設定し、一人ひとりが「やりたい」という思いのもと、場を選択します。そこで、新たな発想が生まれます。



ブリッジの下を通過して、オリジナルのじゅっにしよう！

どろどろにんじゃがどこかで見ているかもしれないよ。

みんなでミッションをクリアできると楽しいね。



6~7月

ぐんぐんタイム 国語—生活

「くちばし」 (学校クイズをつくろう)

音がするよ。クイズになるかな。



仲良しになった先生のクイズをつくるのもおもしろそうだな。

学校たんけんや先生たんけんで学んだことを生かして、「学校クイズ」をつくりま



音楽室にはいろいろな楽器があったよね。

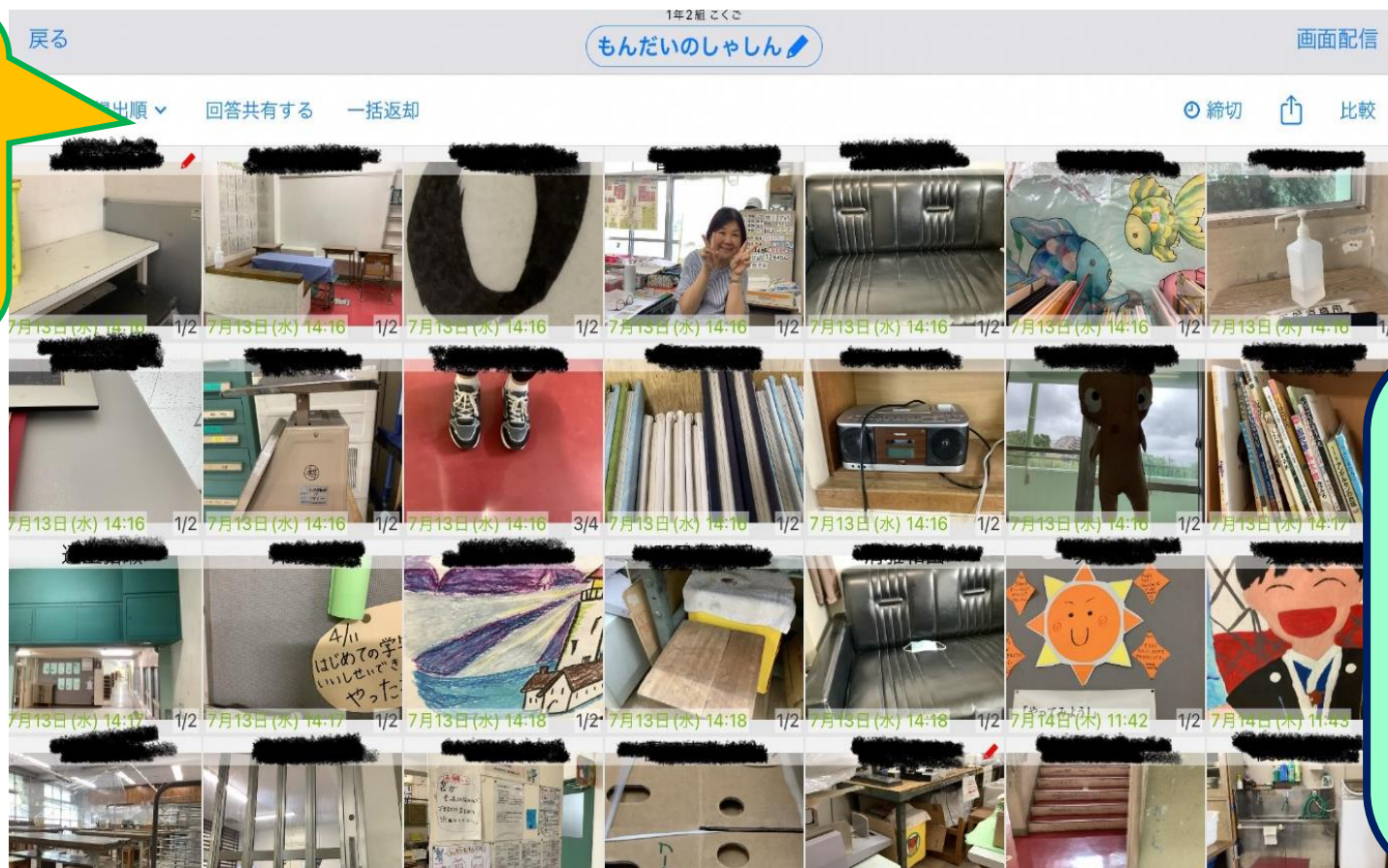
自分の好きなところへ行けることにわくわくしていました。

6~7月

ぐんぐんタイム 国語一生活

「くちばし」 (学校クイズをつくろう)

クイズにした
いものの写真
を撮ってきた
よ!



学校の中で、自分
が好きな「もの・
場所・人」を全員
が選び、学校クイ
ズをつくることが
できました。

考察（小学校）

- ◆学校のスタートは入学式。そこからスタートカリキュラムは始まると考え、入学式の在り方を「子どもにとってわくわくするもの」にしています。入学式から子どもたちの興味をひく演出をすることで、「おもしろそう」「やってみたい（行ってみたい）」という気持ちを高めることができたと考えています。入学式翌日から学校たんけんに向かいましたが、たんけんをしていくうちに、給食室や印刷室、校内にいる教職員など、子どもたちは次々といろいろなものや人に興味をもち始めました。自分の興味のある場所へ行くことができる楽しさ、新たなことを発見したときの喜びを体感することが、「いきいき」「わくわく」につながるのだと感じました。
- ◆学校たんけんで発見したものや「なんだろう？」と思ったことを友達に伝えることで、学び合いができたと考えています。一人ひとりが「行ってみたい」と思った場所に自由にたんけんすることによって、異なる発見が集まります。それを伝え合うと、「そんなところがあったのか。行ってみたいな。」と、次の活動の目的をもつことができます。また、活動を通して疑問に思ったことを、みんなで解決しようとする姿も見られ、個人の興味がみんなの学びにつながりました。一人ひとりを生かす学び合いは、幼稚園で育まれた協同性と探究心が土台になっていると感じます。
- ◆様々な教科学習においても、子どもたちの自由な発想によって、活動の幅が広がりました。体育の学習では、場を設定することで友達と豊かにかかわりながら様々な動きに挑戦していました。人とのかかわりの中で、新たな発想が生まれ、「わくわく」しながら楽しむことができました。国語の学習でも、一人ひとりがクイズにする場所やものを自分で選び、思いに沿って自分から関わりながらクイズの文作りを行い、主体的に学習を進めることができました。
- ◆一人ひとりの興味や関心を受け止め、「やってみたい」という思いを生かす授業展開、単元構成をしていくことで、安心して自己発揮し、意欲的に活動する様子がどの学習でも見られました。そうした学習の日々の積み重ねが、主体的に学習に取り組む態度を形成していくと考えます。それは小学校から始まるのではなく、幼稚園（幼児期）から積み重ねてきた育ちの延長線上に形成されていくということ、実践を通して感じるようになりました。

成果と課題

《成果》

♥保育や学習での「子どもの姿」を通して架け橋期のカリキュラムを考えていった。子どもの姿には園、学校双方で共通なものがある。それがテーマにある「わくわく」「いきいき」「やってみたい」という姿である。その共通する姿を引き出すには、保育者や教師がどのような保育や授業をつくっていけばよいのかを、それぞれの実践を通して考えることができた。双方で共通するのは「子ども達の『やりたい』がかなえられる保育や授業」である。子どもの声を聞き、子どもが自分たちで作り出す遊びや学習を保障していくことが、主体的、創造的な活動を支えていくことがわかった。さらに、幼児期にそうした遊び方を経験してきた子ども達は、学校でも同じように学ぶ事ができることがわかると、「やってみたい」という思いを実現しようと自ら考え行動しようとする姿を早い段階から見せていた。また、見通しをもって探究的に取り組み、活動を広げていこうとする姿や友達と協同的に学び合う姿も自然に引き出され、意欲的、主体的に学習に取り組む力は幼児期の経験が大きくつながっていることを実感できた。

《課題》

- ♠幼稚園、小学校ともに「やりたい」がかなえられる保育や授業の実践を重ね、そこで見られる子どもの姿から、さらに架け橋期のカリキュラムを検証していくこと。
- ♠年中、年少でも同じような保育の実践を進めてみること。
- ♠小学校は、様々な教科等における実践を重ね、子どもの姿で検証していくこと。